国際交流

●外国人学生

数学は国際化が進んだ学問であり，当研究科には海外から毎年数多くのビジターが訪れて活発な研究交流を行っています．そうした研究者レベルの交流に加えて，留学生を受け入れることは，東大の国際的責務の一端を担うと同時に，学生の多様性を通じて日本人学生にも勉学や生活意識に良い刺激を与えます．また，国際的な教育交流を保つことは，世界から優秀な学生を引き付けるだけの魅力ある大学院づくりを私たちが常に心がけることにもつながります．

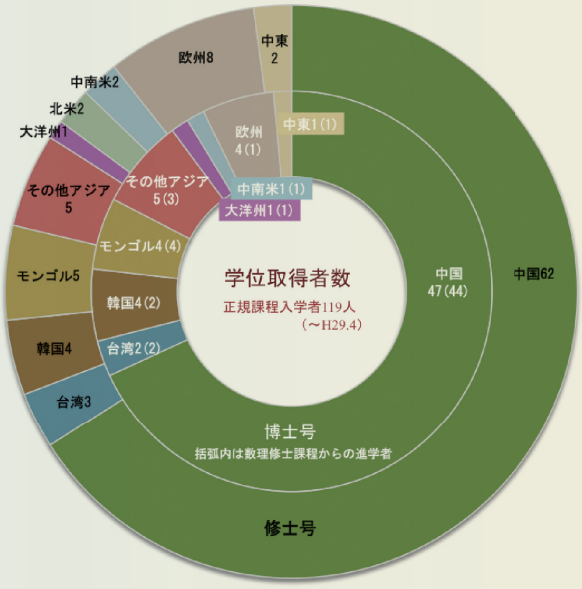
当研究科は1992年の創設時より，外国人留学生を積極的に受け入れる方針をとり，たとえば，国立大学の数学系大学院で初めて，毎年修士課程で6名，博士課程で3名の留学生を定員内で受け入れることを制度化しました．
これまでに当研究科で修士課程を修了した外国人留学生は94名，博士号を取得した学生は70名にのぼり，当研究科が留学生を受け入れた国は20カ国を超えます（平成29年3月末現在）．この中には，国費留学生や私費留学生の他，当研究科独自の留学生支援事業で援助された学生も少なからず含まれています．この事業に必要となる資金の一部は，寄付によって賄われてきました．現在も東京大学および当研究科の留学生支援事業により毎年１～2名の留学生を受け入れています．また，大学間協定等による交換留学生の制度を利用したヨーロッパからの短期留学生も増え，留学生の出身国は多様化する傾向にあります．

当研究科の国際交流室では，私費留学生を含めて20名前後いる外国人留学生の生活支援・相談などの業務を行っています．また，海外在住者からの留学に関する問合せも数多くあり，これらの膨大な業務に，少人数の献身的な職員と国際交流担当の教員で対応しています．当研究科の入学試験に無事合格した留学生にとっては，やはり都心という場所柄，その住居の確保も頭を悩ます問題です．留学生が入居できる施設も少しずつ増えてきていますが，東京大学全体の留学生数の増加により，大学のインターナショナルロッジや学生寮に入居できない留学生がまだ多くいるのが現状です．

グローバーリゼーションにおける世界のトップ大学間の国際競争の中，世界の俊英を当研究科が留学生として受け入れるために，奨学金・学生寮をはじめとする留学生への支援体制が，今後さらに強化されていくことが望まれます．

（文責　小林　俊行）

●留学生出身国・地域別人数

括弧内は女性で内数
平成29年5月１日現在

国籍（出身地域）	修士課程	博士課程	研究生	合　計
中国	4（1）	8（1）	0	12（2）
韓国	2	1	0	3
台湾	0	1	0	1
ブラジル	0	1（1）	0	1（1）
フランス	0	1	0	1
スペイン	0	1	0	1
ウクライナ	0	1	0	1
ロシア	0	1	0	1
チリ	1	0	0	1
ポーランド	1	0	0	1
合計	8（1）	15（2）	0	23（3）